

生態系保全で農産物ブランド化して 都市部に残る自然と農業を守る

さんすいかい
神奈川県：三翠会

○団体の目的と経緯は？

【目的】

都市部に位置する茅ヶ崎を流れる三つの河川や田んぼに残る自然及び農業を守ること

【経緯】

「湘南タゲリ米」プロジェクトを平成 13 年に立ち上げた。平成 18 年度農水省モデル地区事業「農村自然再生高度化事業」に選定され、水田魚道やビオトープの設置、生きもの調査などを実施するようになる。現在も、保全施設の改良・改善を実施している。



三翠会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】ビオトープ、冬期湛水、魚道

【活用した事業等】農村自然環境再生活動高度化事業

【保全対象生物】：タゲリ、ドジョウ、ナマズ、フナなど

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. ブランド米「湘南タゲリ米」の普及

①水田耕作農家をサポート

- ・地元米生産を継続してもらうため、農家の負担にならないように農家から買取り、そこからブランド米としての販売を実施

2. 生物保全活動

①水生生物、植物、昆虫、鳥類調査

- ・魚道やビオトープ、魚道の魚類遡上調査

3. 勉強会、観察会

①魚道周辺や田んぼの生きもの観察会

- ・地域の自然環境の貴重さを理解してもらうためのイベントを実施

4. 水田の多面的価値の理解啓発活動

①自然に親しむ、湛水機能等に理解を得るための活動

- ・三翠会オリジナル教科書「三翠会ブックレット」による自然環境啓発活動など



ビオトープ水田



生きもの観察会の開催

○継続した活動でこんな効果が！！



設置された魚道

■生物量の保全に寄与

・ナマズ等の遡上、水田での産卵行動の継続が毎年確認されている。

■地域農業の活性化及び農家の生物保全意識の向上

・活動後、地区の水田耕作面積減少が完全に止まり、さらに、「湘南タゲリ米」の取組に協力してもらえる農家が増加している。

○課題・苦労した点

■周辺農家の活動への理解

・活動開始時の周囲の農家は、自然保護団体の活動に賛同を示す人が少なく、活動への理解を培うことが課題となった。

■ブランド化の取組への農家の参加

・無農薬や減農薬栽培は農家にとって手間がかかるため、団体と農家間の信頼関係の構築や農家の負担にならないような仕組み作りが必要であった。

○工夫した点

■集落の行事等への積極的参加

・集落での川ざらいや地域の収穫祭などに参加することで、周辺農家の当会の活動に対する信頼を少しずつ得た。

■ブランド米の販売実績の構築

・最初は日本野鳥の会など環境保全意識の高い人たちを対象に販売し、ブランド米が実際に売れることを農家に知ってもらった。また、商品開発においても、従来から作られていた品種を前提とした。(米焼酎の開発)

○活動の特徴！！

■地元農家へのサポートも保全活動の1つ

・生態系保全活動では、地元農家の協力がなくてはならないものであるため、農家へのサポートを実施することで持続可能な保全活動へとつながっている。



○団体の概要は？

- ・平成12年度に設立され、活動エリアは神奈川県茅ヶ崎市西久保地区としている。
- ・任意団体であり、人数は15名。
- ・年間活動日数は、約60日である。

